

愛称は「不二竹鼻町屋ギャラリー」



愛称が決まった「不二竹鼻町屋ギャラリー」の紹介パネルを手にする高木力社長(左)と松井聡市長＝羽島市役所

羽島市の新展示施設 4月末開館

羽島市が4月下旬に同市竹鼻町で開館する展示スペース、竹鼻町屋ギャラリーの愛称が「不二竹鼻町屋ギャラリー」に決まった。市が命名権を取得する企業を公募し、航空機リースなどを手掛ける父で前社長の故・茂正

さんが収集し、子会社から市に寄贈した前田青邨や熊谷守一、加藤唐九郎など県ゆかりの著名作家の絵画や陶芸品など約100点を展示する。学芸員2人を置き、常設展のほか企画展も行っていく。

締結式が市役所で開かれ、松井聡市長と高木社長が契約書を取り交わした。高木社長は「多くの人に来てほしい。今後も所蔵品の充実に協力したい」と語った。松井市長は「町なかのにぎわい創出の拠点として地域発展の原動力になる。応援に深く感謝したい」と述べた。命名権の契約期間は4月1日から5年間。命名権料は年間100万円。

(亀山大樹)

羽島に町屋ギャラリー

20世紀の美術家作品所蔵



内覧会で作品について出席者に解説する三輪さん(左)＝羽島市竹鼻町で

羽島市竹鼻町で十八日にオープンする「不二竹鼻町屋ギャラリー」の内覧会が十三日、あった。二十世紀に活躍した著名な美術家たちの作品を順次、展示していく。所蔵するのは板画家の棟方志功、日本画家の奥

18日オープン

村土牛、陶芸家の川喜田半泥子の作品など。航空機リースなどを手掛ける不二商事の子会社不二精工(羽島市)が市に寄贈した。八十八点あり、総額は五億円以上という。ギャラリーは、もともとあった町屋を市が整備

した。二階建てで展示スペース、研修室を備える。延べ床面積二百七十四平方メートル。内覧会は関係者約二十人が出席した。今井田一巳館長(左)が「アートの魅力を市民の方々に感じていただけるよう努力する」とあいさつ。不二商事の高木力社長(右)が、施設の維持管理運営費として二千万円の寄付目録を、松井聡市長に手渡した。市長は「本格的な美術館は市にとって悲願だった」と述べた。

その後、学芸員の三輪祐衣子さん(左)が作品を一点ずつ紹介。熊谷守一の作品「蟻」の前では「守一はアリをいつまでも眺めているような少年だった。その観察の鋭さが表れている」などと話した。入館料は三百円、中学生以下無料。

(秋田佐和子)

羽島市に美術館開設

羽島市初の美術館となる、市営「不二竹鼻町屋ギャラリー」が18日、同市竹鼻町の中心街にオープンした。写真。

大正期の町屋を取り壊し、当時の風情を残して新築した鉄骨2階建て、延べ床約274平方メートル。1階に展示スペース2カ所、2階に

研修室を設ける。建設費は約9200万円。

市内のタイヤ部品製造会社、不二精工（高木力社長）から寄贈された熊谷や前田青邨の絵画、陶芸家荒川豊蔵の陶器などの美術工芸品88点に、市所蔵の美術品を加えた約100点を順次展示する。

オープニングセレモニーで、松井聡市長は「中心市街地の活性化や、芸術・文化の振興の拠点として、広く親しまれる美術館にしていきたい」とあいさつした。関係者によるテープカットで祝った。

（亀山大樹）

